安全確保研究プログラム

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
○各センター間の連携を十分とり、リスク、健康、地域、計測が一体となった大プロジェクトを構成したことのメリットが出ることを期待する。 ○実施内容、目標・計画のいずれもおおむね妥当と思われる。安全確保のための日本型リスクコミュニケーションの研究が進められることを期待する。 ○一つの研究プログラムとして、これだけの広範の課題に取り組むことの必然性が判然としない。広い研究の範囲を精力的にカバーしようとしているが、もう一歩切り込んだ共通コンセプトやアプローチ手法をよりシャープに見せる必要がある。 ○リスク科学の体系はこれまで国内外でなされていないか？
今後への期待など
○物質の種類、影響の種類がそれぞれ膨大であることから、NIESとしてそれらを整理して、研究やその成果の応用に一定の方向性を示唆できるようなフラッグシップ・プログラムを望みたい。 ○CAS の登録数が急速に増加することは、世の中の化学物質リスク研究にどんなインパクトを及ぼしたのか、また及ぼすべきなのか、といった検討があっても良いように思う。 ○化学物質による環境リスク、健康リスクについて、現実にどのような悪影響が出ることを予測し、その防止のために何をするか、といったことを整理した上での課題選択が望まれる。

主要意見に対する国環研の考え方
①ご指摘の通り、広範囲の課題と複数センターを含む研究プロジェクトとなったことがメリットとなるよう努力したいと思います。 ②リスクコミュニケーション関連については、PJ8 を中心に人文社会科学の研究者との取り組みを進めたいと思っております。日本の特質についての考察も考えたいと思います。 ③安全確保社会の実現に資する共通コンセプトやアプローチ、体系化をより明確に出来るよう考えて進めたいと思います。 ④リスク科学の体系化とは私たちの用語ですが、さまざまな議論や考察が内外であると認識しています。これらを踏まえて研究を進めたいと思います。 ⑤化学物質数が膨大であることに対応し得るリスク管理の方向性を示せるようなフラッグシップ成果を上げられるよう努力してまいります。 ⑥上記とも関連しますが、化学物質数の急速な増加に対応する管理方策がより求められることになると考えており、リスク管理および研究の方向性を考えていきたいと思います。 ⑦ご指摘を踏まえて、現実の悪影響への予測、懸念を改めて考察し、課題構成に反映させるよう努力いたします。